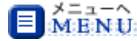




長崎大学 学務情報システム

NU-Web System



シラバス関連 &gt; シラバス参照 &gt; シラバス検索 &gt; シラバス一覧 &gt; シラバス参照

Login User 松尾 成則 『 全学教育 』

タイムアウトまでおよそ1795秒です。

印刷



シラバス参照

タイトル「2012年度シラバス」、開講所属「**教養教育(全学教育)-教養教育\_全学モジュール I-8. グローバル社会へのパスポート**」  
シラバスの詳細は以下となります。

戻る

参照URL

学期	後期	曜日・校時	火1
開講期間			
必修選択	選択	単位数	2.0
時間割コード	20120586018101	科目番号	05860181
授業科目名	●グローバル社会へのパスポート I (国際的視点に立った経済)		
編集担当教員	須齋 正幸		
授業担当教員名(科目責任者)	須齋 正幸		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	須齋 正幸		
科目分類	全学モジュール I 科目		
対象年次	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態	講義科目
教室	[全]新棟3		
対象学生(クラス等)	教育学部, 経済学部, 薬学部, 水産学部		
担当教員Eメールアドレス	msusai@nagasaki-u.ac.jp		
担当教員研究室	経済学部東南アジア研究所(通常は文教キャンパス 本部棟2階にいます)		
担当教員TEL	095-819-2001(本部) 095-820-6356(経済学部)		
担当教員オフィスアワー	火曜日 12時から13時まで (これ以外でも事前に連絡を頂ければ調整します)		
授業のねらい	国際社会で現実に行き起きている事象を、経済学という確立された学問体系を用いて理解し、その理論を現実問題費当てはめる経験を通じて、学問体系の意義や共通した知識基盤の上で議論をする重要性を体得する		
授業方法(学習指導法)	講義を中心としますが、現実の社会における国際的課題を経済学がどのように扱うかを実例を用いて説明します。また講義で説明した理論を現実問題に応用する能力を涵養するために、皆さんを個別のグループに分け(登録学生数に依存しますが1グループ10人以内にする予定です)、グループごとにディスカッションを行うようにします。また、最終講義ではグループごとに成果報告を行うこととします。		
授業到達目標	国際社会を対象とするミクロ経済学、マクロ経済学の基礎的事項を理解させる		
	回	内容	
	1	経済学入門 ミクロ経済学とマクロ経済学 経済学における「国際」の扱い方	
	2	国際経済におけるミクロ経済学1 貿易とは何か 交換と貿易 貿易が我々社会に与える意味を考えよう	
	3	国際経済におけるミクロ経済学2 どうして貿易が行われるのか 日本は何故工業製品を輸出して農業製品を輸入するのか	
	4	国際経済におけるミクロ経済学3 貿易を阻害する要因とは TPPの目指すところは	
	5	グループディスカッション 日本はTPPに加盟すべきか	
	6	国際経済におけるミクロ経済学4 貿易と国内の物価水準	
		経済援助を考えるための基礎	

授業内容	7	経済成長を考えよう	
	8	グループディスカッション 相手国に資金を提供することが相手国の成長に寄与するのか	
	9	国際経済におけるマクロ理論1 為替レートとは 為替レートはどのようにして決まるのか	
	10	国際経済におけるマクロ理論2 世界の為替レートはみな日本のように変動しているのか 金本位制Today	
	11	国際経済におけるマクロ理論3 なぜ円は変動するのか 中国元は変動しているのか変動していないのか	
	12	グループディスカッション 日本は変動相場制を選択すべきか固定相場制を選択すべきか	
	13	国際経済におけるマクロ理論4 為替レートの変動と国内の物価水準	
	14	国際経済におけるマクロ理論5 為替レートの変動と利子率	
	15	グローバル社会で活躍するために必要な経済知識とは グローバル社会におけるキャリアプランと経済学	
	16	グループによる報告会 グループごとに課題を設定し、解決策を発表する	
	キーワード	交換の利益 比較優位 経常収支 為替レート 通貨制度	
	教科書・教材・参考書	特に使用する予定はありません。必要な資料等は講義の際に配布します	
	成績評価の方法・基準等	講義の際の発言(貢献度) グループディスカッションにおける貢献 最終課題報告	
	受講要件(履修条件)	モジュール「グローバル社会へのパスポート」を選択した学生	
	本科目の位置づけ	モジュール「グローバル社会へのパスポート」において国際社会を理解するための、経済学的な基礎的素養を涵養するもので、モジュールⅡの応用的な内容の基盤的知識を提供します	
	学習・教育目標	国際社会で起こる様々な問題を経済学を用いて説明する素養を身につける	
備考(URL)			
備考(準備学習等)	社会の動きに関心を持ち、日々のニュースに敏感に過ごして下さい		





## シラバス参照

タイトル「2012年度シラバス」、開講所属「**教養教育(全学教育)-教養教育\_全学モジュール I-8. グローバル社会へのパスポート**」  
シラバスの詳細は以下となります。



戻る



参照URL

学期	後期	曜日・校時	月2
開講期間			
必修選択	選択	単位数	2.0
時間割コード	20120586017701	科目番号	05860177
授業科目名	●グローバル社会へのパスポート I (国際的視点に立った法と政治)		
編集担当教員	嶋野 武志		
授業担当教員名(科目責任者)	嶋野 武志		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	嶋野 武志		
科目分類	全学モジュール I 科目		
対象年次	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態	講義科目
教室	[全]新棟3		
対象学生(クラス等)	教育学部, 経済学部, 薬学部, 水産学部		
担当教員Eメールアドレス	shimano@nagasaki-u.ac.jp		
担当教員研究室	産学官連携戦略本部		
担当教員TEL	095-819-2876		
担当教員オフィスアワー	11:00~17:00		
授業のねらい	人間が集団生活を営むためには、様々な決まりやルール、即ち法を定めておかなければならない。しかも、国際的交流が飛躍的に増加すると考えられる21世紀においては、自らが生活する国・地域の法のみならず、異なる歴史・文化を有する国・地域の法についても理解できる能力を養っておくことが重要である。 この科目においては、国際法に関わる交渉に参加した経験を有する教員の指導の下、そもそも法とは何かを学んだ上で、他の国・地域の法、さらには国際社会を規律する国際法を概観し、法の多様性を理解するとともに、そうした法を生み出す場である政治の現実についても学ぶことを通じ、グローバル化が進展する世界において必要とされる人間の多様性を理解することのできる能力を養う。		
授業方法(学習指導法)	法や政治の問題を考えるのに際しては、まず基本となる知識が不可欠なため、基本的には講義形式を採用するが、法や政治に関わる問題が如何に身近なものであるかを実感してもらうとともに、現実の問題に対して、如何に多様な解決方法があるのかを知ってもらうために、具体的な事例を討議するグループディスカッションも行うこととする。		
授業到達目標	法や政治の問題を考えることを通じて、法、さらには人間の多様性を理解しうる能力を身に着けることにより、そうした多様性を前提としながらも、社会を安定的に営んでいくために必要な「利害調整能力」の基礎を確立する。		
	回	内容	
	1	導入部分として、そもそも法とは何かを学ぶ。 まず我々の生活や社会のどのようなところに法が登場するのか、そうした法はどのように形成されるのかを学ぶ。	
	2	法についての様々な思想や歴史を学ぶ。 これにより、法とは誰かから与えられるものではなく、社会が生み出していくものであることを理解する。	
	3	民事に関する法について学ぶ。(民事法1) まず財産法について、身近な取引や契約、交通事故に関わる損害賠償などの事例について、どのような問題がどのように解決されているかを学ぶ。	
	4	民事に関する法について学ぶ。(民事法2) ここでは、家族法について、結婚・離婚、相続などの事例を通じて、どのような問題について、どのような解決が行われているかを学ぶ。	
	5	次に企業活動に関する法について学ぶ。 ここでは、企業とは何か、企業は誰によってどのように作られるのか、その取引においてどのような問題が生じるのかについて学ぶ。	
		刑事に関する法について学ぶ。	

授業内容	6	人が罰せられるのはどのような場合か、何故罰せられるのか、罰する場合の手続はどのようになっているのかなどを知ることにより、刑事法の基礎を学ぶ。	
	7	国家に関する法である憲法・行政法を学ぶ。 ここでは、国家の運営、国家と国民の関係などについて学ぶ。	
	8	その他の法について学ぶ。 労働法や環境法など、現代において重要性を増している分野の法を紹介する。	
	9	第7回が終了した時点でレポートを作成し、そのうちのいくつかを題材として議論を行う。 これにより、国内法に関わる問題であっても、極めて多様な考え方が成り立ちうることをあらためて実感する。	
	10	次に、英米法やヨーロッパ法など、代表的な外国法を概観する。これにより、歴史や文化が異なる国・地域では、類似の問題であっても、異なる解決が行われることを理解する。	
	11	国際社会を規律する国際法について学ぶ。 国内法と国際法の共通する部分と、紛争解決システムなどの異なる部分を理解する。	
	12	法に対する一定の理解を前提に、法を生み出す政治の現実を学ぶ。 まず身近なところとして、国内法について、現実如何なる「利害調整」が行われているかを学ぶ。	
	13	ここでは、我が国の政治史を概観し、法を生み出す政治における「利害調整」のあり方も時代により異なることを理解し、法、さらには人間の多様性を学ぶ。	
	14	国際法を生み出す国際政治の現実を学ぶ。 特に、各国の利害が正面から衝突する国際通商交渉を例にとり、国際的な場で如何なる「利害調整」が行われているかを学ぶ。	
	15	国際政治についても、時代により、地域により、様々な「利害調整」が行われてきたことを知り、法、さらには人間の多様性を学ぶ。	
	16	試験を行う。	
	キーワード	法、法の背景としての歴史・文化、法を生み出す政治、利害調整、多様性	
	教科書・教材・参考書	特になし。(但し、授業開始後、必要に応じて指定することはある。)	
	成績評価の方法・基準等	レポート及び試験を通じて行う。 法、さらには人間の多様性を理解する態度が見られるかどうかを特に評価する。	
	受講要件(履修条件)	特になし。(但し、我が国の法が重要な題材となるため、日本語を解せることが望ましい。)	
	本科目の位置づけ	本科目は、グローバル社会において必要とされる「利害調整能力」の基礎となるよう位置づけられる。	
学習・教育目標	法や政治にとどまらず、歴史、文化等幅広い分野に興味を持ち、読書等を通じ、人間の多様性を学んでほしい。		
備考(URL)			
備考(準備学習等)	特になし。		





タイトル「2012年度シラバス」、開講所属「**教養教育(全学教育)-教養教育\_全学モジュール I -8. グローバル社会へのパスポート**」  
シラバスの詳細は以下となります。



学期	後期	曜日・校時	火2
開講期間			
必修選択	選択	単位数	2.0
時間割コード	20120586017301	科目番号	05860173
授業科目名	●グローバル社会へのパスポート I (東西文化交流の歴史)		
編集担当教員	姫野 順一		
授業担当教員名(科目責任者)	姫野 順一		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	姫野 順一, 菅原 潤, 深見 聡, 松田 雅子		
科目分類	全学モジュール I 科目		
対象年次	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態	講義科目
教室	[全]新棟3		
対象学生(クラス等)	教育学部, 経済学部, 薬学部, 水産学部		
担当教員Eメールアドレス	himeno@nagasaki-u.ac.jp		
担当教員研究室	環境科学部 環420		
担当教員TEL	095-819-2722		
担当教員オフィスアワー	火 13:00~14:00		
授業のねらい	この講義は、長崎を基点とする東洋と西洋の「知的交流の歴史」(Cross Intellectual History)をほりさげ、国際交流における文化的・歴史的側面を理解し、国際人としての教養に基づいた態度と倫理の形成をはかろうとするものです。講義は自主性と思考力、判断力と表現力を尊重します。		
授業方法(学習指導法)	歴史資料や視聴覚教材を用いて東西文化の交流の諸相を解説します。また資料の現地調査や見学なども織り交ぜます。		
授業到達目標	長崎を中心とする海外交渉の歴史の概略を理解し、異文化交流における接点における摩擦や解決努力の苦勞、双方への理解の浸透といった国際的な感覚の習得を目標とします。		
授業内容	10/2 第1回「世界史」の中の長崎 姫野順一(環境科学部 教授) 10/9 第2回 南蛮貿易と南蛮文化 (同) 10/16 第3回 唐蘭貿易と唐紅毛文化 (同) 10/23 第4回 日本観察者としてのシーボルト 宮坂正英(シーボルト大学教授) 10/30 第5回 シーボルトを支えた長崎 (同) 11/6 第6回 シーボルトの目!川原慶賀 原田博二(長崎史談会会長) 11/13 第7回 幕末開港と洋学:坂本龍馬の周辺 姫野順一(環境科学部教授) 11/20 第8回 写真術の伝来と伝播 (同) 11/27 第9回 長崎遊学と西国雄藩の活躍 深見聡(環境科学部准教授) 12/4 第10回 開明君主・島津斉彬と近代化事業 (同) 12/11 第11回 英語学習の歴史は長崎で始まった!—①英語辞書について 松田雅子(同 准教授) 12/18 第12回 英語学習の歴史は長崎で始まった!—②人物像について (同) 1/8 第13回 幕末洋学における近代的思惟の輸入 菅原潤(環境科学部 教授) 1/15 第14回 大正デモクラシーと近代の相克:教養主義と修養主義 (同) 1/22 第15回「世界史の」のなかで東西文化交流の歴史を振り返る 姫野順一(環境科学部教授)		
キーワード	東西文化交流 日欧交渉史 長崎学 知性史 異文化接触		
教科書・教材・参考書	姫野順一編著『出島雄藩と九州』(九州大学出版会), 羽田正『新しい世界史へ——地球市民のための構想』岩波書店(岩波新書), 園田尚弘・若木太一『辞書遊歩』(九州大学出版会)		

成績評価の方法・基準等	毎回配布される出席確認を含めたレポートの評価の集計による。
受講要件(履修条件)	特になし
本科目の位置づけ	モジュール「国際社会へのパスポート」における基幹科目として開設される。
学習・教育目標	海外交渉、異文化接触、長崎の歴史の基礎的知識を身につけ、自分の知識として利用できることをめざす。
備考(URL)	
備考(準備学習等)	



Copyright (c) 2004-2009 NTT DATA KYUSHU CORPORATION. All Rights Reserved.